

平成28年度 新潟市若年者自立支援ネットワーク会議 会議録（概要）

■ 開催日時：平成29年3月27日（月）午前10時～12時

■ 開催場所：新潟市役所 本館6階 第3委員会室

■ 出席者：

【委員】市嶋範恵委員、福島昇委員、外山孝幸委員（代理：新飯田健）、
西條秀俊委員、枝並素子委員（代理：阿部修）、布施幹男委員、
火宮麻衣子委員（代理：佐藤政彦）、五十嵐友彰委員、真柄渉委員、
佐藤佐智夫委員、堀内一恵委員（代理：豊永輝子）
（欠席委員：宮島裕司委員、久住寿代委員、田中健委員、和田早苗委員）

【事務局】新潟地域若者サポートステーション 総括コーディネーター 佐藤純子
新潟地域若者サポートステーション ジョブトレーニングサポーター 片山 尚哉
雇用政策課 高野課長、米山係長、富井副主査、池田主事

■ 会議概要：

1. 開会挨拶（高野雇用政策課長）

2. 委員紹介、会長・副会長の選任（会長 西條委員、副会長 福島委員）

3. 報告事項

（1）現下の雇用情勢等について（新潟公共職業安定所 布施委員説明：資料あり）

質疑応答 なし

（2）平成29年度若年者就労支援について（事務局 池田主事説明：資料1）

質疑応答

（西條委員）

U I J ターン就職とはどういうものか、ご説明いただきたい。

（事務局 池田主事）

新潟を例に簡単に説明すると、Uターン就職とは新潟出身者が大学進学等で県外に出た後、新潟に戻ってきて就職すること。I ターン就職とは都会で生まれ育った者が一度首都圏で就職した後、新潟に移住して就職すること。J ターン就職とは地方出身者が大学進学や就職を機に県外に移ったあと、新潟に移住して就職すること。

(市嶋委員)

首都圏開催のセミナーイベントについて、成果を知りたい。

(事務局 高野課長)

この事業は開始2年目であるが、初年度に比べると参加学生数はかなり増えている。新潟の中小企業を知ってもらうという目的は達成できている。

(市嶋委員)

保護者も、Uターンしてほしいと望んでいる部分はあると思う。多くの学生が進学している首都圏大学に対し、ピンポイントでアタックしてはどうか。

(事務局 高野課長)

市としても、保護者へのアプローチが重要だと感じており、今回「にいがた就職応援」をスタートさせた。また、県が首都圏の大学と連携協定を結んでいるため、そういった部分を生かし、新潟出身者の多い大学の父母会への出張相談等に力を入れている。

(3) 新潟地域若者サポートステーション活動状況、事業実績

平成29年度事業計画について(事務局 佐藤総括・片山サポーター説明：資料2)

質疑応答

(福島副会長)

資料P.9の(3)について、サポートステーションとして高校との連携強化をどのように進めていく予定なのか、もう少し詳しくお聞きしたい。

(佐藤総括)

なかなか難しい部分ではあるが、学校から依頼を受けて、学内で就労相談を行ったり、土日によろっとカフェを開催して生徒の話を聞くなどしている。少しずつだが、連携して支援をしていければと思っている。

(西條会長)

資料P.2の課題の部分で、Dコースの新設とあるが、詳細を教えてください。

(佐藤総括)

Aコースではまず、生活習慣を整えることから始まり、BやCは徐々にステップアップ、Dは就職に近い人への支援を強化するコースとなる。A、B、C、Dが分断されているわけではなく、常にフォローしながら段階的に支援していく。

(西條会長)

来年度、1番高い等級で内定を得たということであったが、どういう点が最も評価されたと感じるかお聞きしたい。

(佐藤統括)

これまででは前年度の実績で等級が決まっていたが、今回から入札方式に変更になり、地域の規模に応じて等級が決まる。新潟市は政令市ということから、最も高い等級となったが、サポステの指導を行う中央センターからもジョブトレの取組み等、高評価を得ている。

(市嶋委員)

とりあえず専門学校に入学したものの、目的を見失い、離職する方が増えてきているという話を耳にする。専門学校卒業生への支援はあるか。

(佐藤統括)

現在のところ、専門学校との情報共有はしていないが、先生から相談がくるケースはある。高校へはキャリア教育の一環として講話等も実施する予定でいるので、専門学校からも要望があれば検討していきたい。

4. 意見交換

○サポステ事業に係る平成 29 年度県新規事業について(火宮委員代理:佐藤様 資料あり)

職場実習生の受入れに伴う受入れ企業の負担軽減と、若年者の自立支援に協力する企業の拡大を目的に、サポステから受入れ企業へ協力費として1人あたり1,000円/日を支給し、県はサポステへの補助を行うスキームを予定している。

○にいがた若者自立応援ネットの取組みについて(枝並委員代理:阿部様 資料あり)

新潟市若年者支援センター(オール)で若者の社会的自立を支援している。若者の居場所を作り、自己肯定感を育む事業を行っており、1年で平均40人が卒業している。今後もにいがた若者自立応援ネットを通じて、連携して支援を続けていき、中退の未然防止等に力を注いでいきたい。

○新潟市こころの健康センター平成 29 年度事業計画について(福島副会長 資料なし)

相談だけでなく、アウトリーチ(家庭訪問)も行っていることが特徴であり、信頼関係を構築し、関係機関、場合によっては医療機関へつないでいく。一方で、引きこもりセンターからサポステへのつなぎは難しく、居場所に残ってしまい次のステップに思うように進まないという課題があるので、今後も支援の強化を模索していく。

また、若者の自殺も問題となっている中、大学生の年代を対象にゲートキーパーの育成を強化したい。仲間の問題に気付き、互いに相談しあえる関係を築くことができるよう、ワークブック形式のテキストを作成する予定。(次年度の会議でお披露目できるはず。)

○その他

(豊永委員 資料あり)

沼垂地域に居場所を作り、コミュニティー協議会等と協力して地域の活性化に取り組んでおり、ワンコインで高齢者や障がい者への生活支援の手伝いもしている。

(佐藤委員 資料なし)

県からの受託事業として、合同企業説明会の開催や、業種の異なる企業の話聞いて職業観を醸成するジョブサーチバスの実施を行っている。また、就活開始前の学生を中心に、県内企業の情報発信をしたり、就職セミナー等を開催する予定。

(真柄委員 資料なし)

普段、サポステとは職場実習の受入れ等で関係をもっており、実際にジョブトレ生の受入れも行っている。実習に参加する若者の多くが発達障がいを抱えており、まずは家以外での居場所づくりが重要であると感じている。そのような背景の中で、サポステ単体でできることは限られているため、若者支援のネットワークをさらに強化し、関係機関が協力してサポートしていくことが必要。

(五十嵐委員 資料なし)

最近、工業関係の業種での人材不足が顕著である。雇用促進協議会で作成している企業ガイドブックを活用して情報発信をし、企業の人材確保、若者の就労支援に力を注いでいきたいと考えている。

(西條会長 資料あり)

就職環境は改善しているが、本学でも一定割合、発達障がいを抱えていたり、就職が上手くいかない学生がいる。そのような中、今までは2学期制であったが、29年度よりクォーター制を導入し、学外学習を積極的に取り入れるよう計画している。インターンシップや留学など、外に出る活動を強化していきたい。

また、ギャップイヤーも推進しており、地方創生の一環として、学外に出て地域の方と一緒に活動するダブルホーム等の実施も予定している。

5. その他（事務局）

本会議委員の皆様の任期は今月の31日までとなっている。新潟市では附属機関等の委員に女性の登用を推進しており、引き続き女性の参画を積極的に進めたいと考えているため、委員候補者の選任については女性の委員構成に配慮をお願いしたい。新年度の人事異動等もあるため、改めて委員の委嘱について依頼させていただくので、本市の男女共同参画の趣旨をご理解いただき、可能な限り協力いただきたい。